

議長（茅根猛君） 次，3番木村郁郎君の発言を許します。

〔3番 木村郁郎君登壇〕

3番（木村郁郎君） 3番木村郁郎でございます。議長より発言のお許しをいただきましたので，通告順に一般質問を始めさせていただきます。

当市では，第5次総合計画後期基本計画を策定するに当たり，20歳以上の一般の市民の方々及び将来の常陸太田市を担う中学生，高校生の意向を計画策定に反映していくための基礎資料とするために，今年の2月中を実施時期として市民アンケートが行われました。アンケートにおいては，アンケートに答える方自身の属性や地域への愛着，市のイメージの項目を選択肢より選んでもらいながら，保健・福祉・医療について，産業について，自然環境，生活環境についてなど，地域の暮らしやすさや身近な環境についての項目から，重要度，満足度の高いものを選んでもらい，現在の各施策を市民の皆様がどのように感じているかを調査しています。

そのよう中で，私は市民の皆さんが常陸太田市が重点的に推進すべきものと考えている1つとして，少子・高齢化，人口減少対策。2つ目に医療，福祉の整備の中から，1つ，放課後児童クラブの拡充について，2つ，子育て家庭への経済的支援の充実について。3つ目として，保育園での保育内容の充実について，施策の現況を確認しながら，今まさに子育てをしている世代の方々が，常陸太田市で将来を担う宝である子どもたちを産み育てるために必要としている施策は何か。現在の施策にプラスする必要があるもの，また，新たな施策を展開する必要があるのではないかと思われることについて質問をいたします。

初めに，放課後児童クラブの受け入れ対象学年の拡充と，受け入れ時間の延長についてお伺いいたします。受け入れ対象学年の拡充，具体的には現在希望者については4年生までとなっているものを6年生まで拡充することについて，私は3年前，平成20年9月定例会においても当時の当市の状況及び考え方をお伺いいたしました。当時の答弁としては，児童クラブの定員枠や余裕教室の課題を考慮しながら検討するというものでしたが，その後3年間という年月の経過の中で，定員枠や余裕教室の拡大について担当部署ではどのような工夫がなされてきたのか。また，今後対象学年を6年生まで拡大することについて，保護者の方の残業や通勤時間などの就労条件や児童の安全面の確保の観点から，拡大を希望する保護者の方の願いを酌み取りながらご答弁をいただきたいと思っております。

次に，夫婦共働き，母子家庭，父子家庭，核家族化など，家庭や家族の状況が変化する中で，残業の時間や通勤にかかる時間も考慮に入れ，将来を担う子どもたちを育てる親の負担を軽減するために，児童クラブの受け入れ時間の延長を求める保護者の必要についての当市のお考えを改めてお伺いしたいと思います。

次に，子育て家庭への経済的支援の充実について。具体的には，これは仮称となると思えますけれども，子育て応援手当の支給についてのご所見をお伺いいたします。当市での常陸太田での子育てを奨励し，少子化対策としてマル福制度の充実や保育料の無料化など多くの施策を行っております。しかし，職場までの通勤時間や学校，スーパーマーケットまで遠いなど，いろいろな当市の状況を考えると，他市から転居してくるだけの魅力を感じて動いていただけない

状況が続いていると思います。

そこで他市の試行錯誤と努力の結果を参考に見てみますと、キーポイントは3人目の子どもを考える家庭をいかに常陸太田市に呼び込むかと私は感じています。当市の財政面での負担を考え、3人目以降限りなくであるとか、二人目は幾らで3人目は幾らというような経済的支援ではなく、子ども3人を産み育てるなら常陸太田でという子育て世代に力強くアピールできる(仮称)子育て応援手当を制度設計し、実行することについてのご所見をお伺いいたします。

次に、保育園での保育内容の充実について。先ほどの放課後児童クラブと同様の面もありますけれども、保育時間の延長と病児保育の実施についてお伺いいたします。保育時間の延長については、現在愛保育園については、朝7時から夜7時までの保育時間ですが、木崎保育園、宮ノ脇保育園、金砂郷保育園、すいふ保育園が朝晩の時間が30分ずつ短い、朝7時半から夜6時半までとなっており、さとみ保育園では朝の時間がこれは愛保育園と比較ですけれども、30分短い朝7時半から夜7時までとなっているため、子育て世代が安心して残業など会社の都合に応じた就労をすることができるよう、旧市町村単位で保育園の最長保育時間の延長を考慮することができないか、ご所見をお伺いいたします。

最後に、児童が病気の回復期に至らない場合であり、かつ当面の症状の急変が認められない場合において、保護者の就労などにより家庭での保育が困難なときに、病気の児童を一時的にお預かりする病児保育の実施についてお伺いいたします。

対象児童や保育日時、利用定員、利用料金を制度化し、対象児童及び家庭の安心に寄与することができる病児保育の実施についてご所見をお伺いいたします。

以上、少子化、人口減少対策について1回目の質問を終わります。よろしくお伺いいたします。

議長(茅根猛君) 答弁を求めます。保健福祉部長。

〔保健福祉部長 安田隆君登壇〕

保健福祉部長(安田隆君) 常陸太田市総合計画策定に伴う市民アンケート調査結果の活用についてのご質問にお答えをいたします。

まず初めに、放課後児童クラブの受け入れ対象学年についてのご質問にお答えを申し上げます。児童の受け入れにつきましては、国が作るガイドラインに沿って、「小学3年生までの児童は預からなければならない」となっておりまして、当市におきましては、各児童クラブとも定員に余裕がある場合に小学4年生に限り受け入れることとして、現在開設しております9クラブのうち6クラブで小学4年生を受け入れており、27名が入級しております。

放課後児童クラブの定員は、国が作るガイドラインによりまして、児童1人当たり1.65平方メートル以上が基準面積として定められており、対象年齢を拡大するには新たな場所の確保が必要となります。現在、学校の空き教室の利用は困難な状況にあるため、新たな施設整備が必要となり、多大な費用が見込まれることなどから、現状ではそれらの確保は困難な状況にございます。このため、当面は未設置校への設置などを優先して取り組むこととし、この間、にしおざわ、さきくの2クラブを開設するとともに、土曜日の開設も実施してまいりました。

続きまして、児童クラブの受け入れ時間の延長についてのご質問にお答えをいたします。児童クラブの預かり時間は、開設当時18時を終了時刻としてきたところですが、平成22年度から土曜日の開設を行うに当たりまして、利用者の意向調査を行った結果、18時30分までの希望が多かったことなどにより、受け入れ時間を30分延長した経過がございます。利用者の多くの方からご理解をいただいております、現在のところ預かり時間の延長についての考えはございません。

なお、これまで仕事の都合などにより延長が必要となった場合には、ファミリーサポートセンターの利用も案内しているという状況でございます。今後も同様の対応をしてみたいと思っております。

次に、子育て家庭への経済的支援の充実についてのご質問にお答えを申し上げます。議員ご質問の子育て応援手当につきましては、類似の施策につきまして過去に検討した経過がございます。本市としましては、次世代育成支援地域行動計画策定時に子育てを応援するための環境づくりを進めることを優先といたしましたので、取り組みをしなかったという経過がございます。

なお、子育て家庭への支援事業といたしましては、保育園、幼稚園の第3子以降児の保育料の無料化、乳児のおむつの購入費の助成、中学生までの医療費の支給、さらには新婚家庭への民間住宅への助成など、やまぶきキッズに記載してございます全部で15の事業を実施してございます。その費用ですが、平成22年度で申し上げますと約1億4,100万円となっております。今後も子育て支援策の導入に当たりましては、子育て世代の要望を反映させながら、効率的、効果的な事業に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、保育園での保育内容の充実の中の保育時間の延長についてのご質問にお答えを申し上げます。保育時間につきましては、現在、公立学校では議員ご発言のとおりでございます、愛保育園が7時から19時、さとみ保育園が7時半から19時、その他の木崎、宮ノ脇、金砂郷、すいふの各保育園が7時30分から18時30分までの保育を行っております。また、私立でございますが、はすみ保育園では、7時から20時、太田あすなる保育園が7時30分から18時30分までの保育を行っておりますが、終了の時刻まで残る園児はごく少数でございます、さらに迎えの保護者が仕事の関係で終了時刻を超えるということはごくまれなことでございまして、さらに迎えの保護者が仕事の関係で終了時刻を超えるということはごくまれなことでございまして、保育時間の延長の要望は少ないものと私どもは認識しております。

なお、保護者の勤務時間や通勤時間を考慮して保育園の選定をしていただくことで、当面对応していきたいと考えております。また、仕事の都合などでその都度延長が必要な場合には、今後ファミリーサポートセンターの利用を案内していくという状況で、今後も同様の対応をしてみたいと思っております。

続きまして、病児保育の実施についてのご質問にお答えを申し上げます。病児保育を実施するには、児童の病態の変化に的確に対応しなければならないことや、専用のスペース、専門のスタッフ、そして看護師、保育士等の配置が必要となることなど、人員面や施設の確保など、さまざまな課題がございます。また、費用対効果の面からも、現在病児保育に対して取り組む

考えはございません。

なお、本市では中学校の3年生までのお子さんの医療福祉費の助成を行っており、子育て家庭で経済的な負担を考えるとなく子どもの病気の治療に専念できるよう制度を整えておりますので、その活用を勧めてまいりたいと考えております。

議長（茅根猛君） 3番木村郁郎君。

〔3番 木村郁郎君登壇〕

3番（木村郁郎君） ご答弁ありがとうございました。1点だけ再質問という形になりますけれどもお答えいただきたいと思えます。

それは、3年前に質問したときにも「空き教室がない」という表現をされました。今回は「新しい場所」ということで表現されましたけれども、やはりスペースが足りないということはもちろん、新しい方を採用しなくちゃならないとか人件費の問題もあると思うんですけれども、場所の問題というのはこの話が出たときに、現在未設置校に設置する際に関しても、また私のほうで対象学年を上げてくださいという話をしたときにも、必ず場所のお話が出てまいります。

それで、今のご答弁の中で言いますと、例えば学校近くの公共施設、公民館などという形でちょっと表現させていただきましても、そういった場所を今後考えていくことはできるかどうか、また、現在もひよっとすると考えていらっしゃるかもしれないので、その辺についてちょっと詳しい目に教えていただければと思っております。

また、ほかの件についてはいろいろ理解はしたんですけれども、あと病児保育について、今回一般質問をするに当たり、担当課でお話をさせていただきました。多分課長さんのほうでも詳しく調べていただきまして、今お話をいただいたようなんですけれども、身近なところでは水戸市の私立のスワン保育園で病児保育をなされております。園長先生にお伺いしたところ、水戸ですから常陸太田市よりは人口が多いので、利用人数は当然多いかと思うんですけれども、やはり1カ月、大体平均すると約20名だそうです。ただ、熱などがある場合に、その子を1日だけということはないらしくて、やっぱり三日から四日はお預かりするような形になっているそうです。

当初なぜスワン保育園でこの制度を始めたかという、水戸市としての行政からの依頼によって委託されているということでもございました。確かに常陸太田の場合には、家などもそうですけれども、両親がいて、仮に私の家内が病気であっても見てもらえるということが水戸などよりは条件面でいい面が出ているのかもしれないんですけれども、地域によっては常陸太田市内、そういった方も必ずいらっしゃると思いますので、本当に常陸太田市内の、例えば私立保育園、また公立保育園でそのような形で委託を受けてくださるところがあったりすれば、また市民の皆さんでそのような要望が多ければ、今後の検討課題として考えていただけたらなというふうに思っています。

以上で私の一般質問を終わりにして、最後に1点だけもう一回部長にお尋ねします。どうもありがとうございました。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。保健福祉部長。

〔保健福祉部長 安田隆君登壇〕

保健福祉部長（安田隆君） 木村議員の再度の質問にお答えを申し上げます。

学校以外での場所の探し方というご質問だという認識でご答弁したいと思いますが、今回先ほど申し上げました幸久の放課後児童クラブ開設に当たりまして、当初学校に空き教室が見当たらないということで、地域の公民館等をお願いするという経過もございました。ということで、これまでも学校に限らず周辺の民家、さらには公共の施設等々を含めて当たっておりますが、先ほど申し上げましたとおり、現在は未設置校の設置を優先して開設をしていくということで考えております。